

令和4年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和4年5月21日（土）10時～12時
- 開催場所 天王台北近隣センター
- 参加者 市民9名
- 出席者 星野市長、山元企画総務部長、小林財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、南川建設部長、森都市部長、担当課長等16名
- 懇談要旨

市民：柴崎雨水幹線整備につきましては、工事を進めていただき、ありがとうございました。また、田中調節池から柴崎神社への幹線も進められていると聞いております。前年度、JR常磐線下の工事の基本設計は出来て、今年度は実施設計を行うと事務評価表に記載されておりましたが、進捗状況はどうなっているのでしょうか。

また、JRとの協議状況はどうでしょうか。お聞かせください。2点目は、ゴミ袋の件ですが、クリーンセンターのゴミ袋の有料化の実施について、広報されると思いますが、それはクリーンセンター稼働前でしょうか、後でしょうか、お聞きしたいと思います。次に柴崎地区の産業用地についてですが、イメージ図の中に調整池があるのですが、堤防の高さが低い所があります。越流堤を1メートル高くしないといけないので、後田と同じ高さにしなければならないと思います。このような施設を造るとなると、嵩上げしないといけないのではないのでしょうか。国土交通省との調整ができていないのか状況を教えてください。

建設部長：JR常磐線下の件については、協議は行っていますが、線路の下の部分については、JRさんをお願いしなければなりません。詳細につきましては、担当からお話します。

治水課主幹：JR横断部については、JRと協議を進めているところです。JRは、軌道下のみ受託する考えであります。現地に立坑用地が確保できないことから、基本設計の中で調査・検討を行っています。なお、基本設計は、予算を繰越し、協議を進めます。事業のスケジュールについては、下流から柴崎神社まで令和9年度を目標に進めているところですが、JRの横断箇所について、タイムリーに事業が進められるようJRと協議を行っていきます。

環境経済部長：クリーンセンターは、12月から試運転を開始して、来年の4月

に本格稼働をする予定で進めています。来年度からのゴミの分別方法については、なるべく市民の皆様には負担がかからないように、協議を進めております。協議ではゴミの有料化と指定ゴミ袋の導入は分けて検討していますが、有料化については、4月すぐに実施することは難しいと思っております。

産業用地につきましては、資料はあくまでもイメージ図ですので、このとおりになるとは限りません。これから、共同企業体が用地買収を進めていくことになるのですが、調整池につきましては、利根川上流事務所と協議を進めておりますので、堤防の高さについても調整を行っております。

市長：産業用地については、北新田全体の調整池機能を強化するために、越流堤の位置をもう少し上流側にするような国の計画があります。街中に水が入らないよう、全体を強化する中での一部であるということをご理解していただきたいと思っております。

市民：その調整池ですが、そもそも放流先はどこなのか疑問があるのですが、北新田に放流するのであれば、フラップゲートを造れば、よいのかもしれませんが。なんとなく危険だと思いましたので。それと、用地買収を行うということですが、譲渡所得税の減税は受けられないのでしょうか。教えていただきたいと思っております。

環境経済部長：フラップゲートやポンプ排水により水の侵入を防ぐという方法ではありますが、調整中です。ただ、産業用地はこの場所で確定しているということです。譲渡所得については、おっしゃるとおり、特例は受けられません。

市民：ふれあい懇談会の資料は、市民がわかるような資料を作成してほしいと思っております。何を行なって、どこまで進んで、いつ終わったのか。事業ごとに端的な資料を作成してはどうでしょうか。難しいとは思いますが、市民が関心を持つような資料の工夫をして作っていただきたいと思っております。

市長：資料については、なかなか難しいと思っております。なぜかといいますと各地区のものを全て詳細に掲載しても、我孫子地区の方が布佐地区のことをみても、地元の人しかわからない場所もあります。資料も膨大な量になってしまい、どこをどう掲載すればよいか、非常に難しいところです。また、用地買収などは、計画通りいかない場合があり、具体的なスケジュールを載せるのは、非常に難しいです。また、掲載するとなると地権者との用地交渉にも影響がでてきます。特に道路拡幅については、地権者との交渉が重要ですので、どこまで載

せるかは、難しいと思います。ご理解いただきたいと思います。なお、他の地区については、ホームページに掲載しておりますので、簡単に見られるように工夫はしていきたいと思います。

市 民：柴崎地区産業用地について、市長のビジョンをお聞きしたいと思います。

市 長：産業用地は、住工混在の解消が一番の目的です。昔からある工場の周りが住宅開発され、後から住まれた方々が工場の匂い、音などの問題と、工場側も用地を拡大したくてもできないなど、経営しづらいということを解消し、周辺の住宅の方が住みやすい街にするためです。我孫子市には、そのような土地がなく、当初は、NECの横の田んぼなどを考えたのですが、地震の際に液状化しやすいということが分かりました。経営者さん側も地盤の安定した場所が必要であるということと、交通アクセスが良いところというご意見がありましたので、その部分も含めて再検討し、周辺の方々とも協議を行い選定しました。イメージとしては、我孫子市内の工場が移転してくる形になります。なお、用地内の土地に余裕がでた場合は、市外の工場とも協議を行い、誘致していきたいと考えております。

市 民：広報あびこで知りましたが、水害問題が各地区で多かったのが、参加しました。一点目は、金谷樋管についてです。昭和56年の台風で、利根川からの水で越流堤や田中遊水池がいっぱいになりました。その時に金谷樋管の容量がいっぱいだったので、ポンプで排水をしていました。低いところではボートで避難していました。そういったことから、金谷樋管は、どのぐらいの排水機能があるのかお聞きしたいと思います。あの時のようにならないようにしてほしいと思います。次に、手賀沼公園・久寺家線が開通されましたが、点字ブロックは設置されておりますか。障害者の方のためにも、市内全体で点字ブロックの整備をお願いいたします。3点目ですが、生活者にとっては、プラスチック問題は大変重要なことです。新クリーンセンターは、いつ稼働するのでしょうか。ゴミの分別について、我孫子市はかなり進んでおります。そのような中で、その他のプラスチックについての処理は、燃やすのでしょうか、それとも再利用されるのでしょうか。どのようなお考えか教えてください。

建設部長：金谷樋管については、建設から大分年月が経っています。長期の保全計画を立てていかなければならなくなっており、検討しております。詳細については、担当者からご説明いたします。

治水課主幹：金谷樋管についてですが、田中調節池に利根川の水が入らなければ、開いている状態です。田中調節池に利根川の水が入ってきたら、樋管のゲートを閉めてポンプでくみ出すこととなります。基本的な機能の考え方ですが、水が田中調節池に入る実績と内水での雨量を相互に検証し、決めています。毎秒最大3トン排出でき、小さいポンプが1台と大きいポンプが2台の合計3台で稼働しています。なお、ポンプの稼働は、田中調節池に水が入ってからとなりますので、これまでの稼働回数の実績は少ないのですが、いずれにしましても、建設から30年近く経っていることから、長寿命化の計画を進めているところです。

建設部長：点字ブロックは、視覚障害者団体からも要望をいただいております。今年度は、湖北台地区を進めているところです。市といたしましては、毎年、順次進めておりますので、ご理解いただきたいと思っております。なお、手賀沼公園・久寺家線の点字ブロックは既に設置済みでございます。

環境経済部長：クリーンセンターのゴミの件ですが、その他のプラスチックについては、クリーンセンター稼働後、皆様にはパンフレット等で周知してまいりますが、詳細は、担当者から説明いたします。

クリーンセンター課長補佐：プラスチックにつきましては、まだ、プラスチック新法には対応しておりません。その他のプラスチックは、皆様が分別されて出していただいておりますので、資源となります。容器包装リサイクル協会に委託をするかたちで、入札により落札した事業者にてお願いし、再生化しておりますが、汚れがついている場合には、クリーンセンター場内で選別を行い、燃やさざるを得なくなります。令和5年の4月からの稼働の際の分別につきましては、今年度中にパンフレットを作成し、お配りしてお示ししていきたいと思っております。

市長：公園坂通りにつきましては、これから周辺の方々とお話しをさせていただきながら進めていきたいと思っております。交通量も大分減ってきました。今後、実際の交通量調査をしながら、無電柱化にするかなど協議しますので、長期に渡ってしまうかと思われまいます。近隣の方にはご迷惑をおかけいたしますが、丁寧に説明をしながら、既に意見交換をさせていただいております、歩道等についても、片側は崖で片側は擁壁になっており、拡幅も難しいという中で交通量を減らしながら、別の形態も検討し、進めていきたいと思っております。点字ブロックの設置については、歩道の件が決まってからになると思っておりますので、ご理解

とご協力をお願いいたします。

市 民：子供のプールの授業についてです。最近、北海道の水難事故のニュースが流れていますが、ライフジャケットにはいろんな種類があり、初めて着る人には、どのように装着するのかなど、戸惑いがあると思います。利根川と手賀沼、手賀川に挟まれている我孫子市ですから、水難事故が発生した場合にライフジャケットを着れば安心である、という意識がもてるような授業をお願いしたいと思います。

市 長：今回のプールの授業の民営化については、特に小学校の場合は、一人の先生が全て教えるとなると、専門ではないものもあります。文部科学省も小学校の高学年には教科担任制を導入する考えの中では、当面の間は、中学校の先生が小学校に出向くなどの体制で進めるしかないのでは、と思っております。様々な形で、文科省が小中一貫教育を進める中で、小・中学校が同じ敷地の中で隣にあるということが、非常に有効だと思っております。そういう状況の中の一つとして、プールの授業が民間のプロの視点で教えてもらえます。まずは、泳げるようにというよりは、溺れないように着衣水泳を教えたいと思っております。今、おっしゃられたとおり、ライフジャケットやペットボトル活用など、様々な対応方法を教えてもらえれば良いと思っております。去年モデル校で実施した際に評判がよかったのは、子供たちからは水泳授業が楽しくなった、まったく泳げなかったのに、泳げるようになったなどの声をいただき、高い評価を得ております。我孫子市には、民間のプールが天王台に二つ、我孫子に一つありますが、今年度は、プール授業をもう一校受け入れましょうという話もでておりますので、生徒数の少ない学校から、進めています。なお、いただいたご意見は、教育委員会に伝えます。

市 民：昨年、我孫子市からいただいた防災に関するアンケートに、町内のご意見も伺いながら記入したのですが、防災無線の件についてです。放送内容が聞こえないという人が半数いました。反響や時差により内容がよく聞きとれない。あとは、何か言っているのだろうが、全く聞き取れないとのことでした。台東区だと思いますが、区が発信する内容を受信する小型のラジオを希望者に貸し出しているという話を聞きました。我孫子市として、そのような物を貸し出しているのか否か、または検討しているのか否かをお聞きしたいと思います。本日の資料の中では、ホームページ、ツイッター、SNSなどで発信しているとあり、それは良いことなのですが、高齢者は利用しておりません。高齢者の方にも実効性のあるものの導入をお願いしたいと思います。

市長：防災無線は、ご指摘の通り、たくさん設置すると聞こえづらいもので、近くの方は、うるさい。遠くの方は、聞こえないという、お話はいただいております。また、最近の家は密閉性が高く、聞き取りづらいとのこと。そのような中で、ラジオというご意見もありましたが、我孫子市では、お電話でのフリーダイヤルで放送の内容と全く同じ内容が聞けます。外で何か放送があって聞き取れなくても、この場合であれば、確実に内容が聞けます。他にも、j c o mですが、回線設置無料のキャンペーンを行っております。j c o mでも、放送内容が聞き取れるのですが、無料にもかかわらず、市民からは、ほとんど申し込みがありません。無料キャンペーンがない時は、市の方で設置費用を負担していたのですが、これも申し込みはほとんどありませんでした。これほど申し込みがないという中で、ラジオを貸し出しても本当に利用するのか、市がラジオを買って貸出することが本当に有効なのか、疑問があります。よって、我孫子市では、フリーダイヤル、j c o mでの対応をお伝えしているということです。

市民：私の子供が授業の一環で手賀沼遊覧船に乗り、とても楽しかったと喜んでおりましたが、知床の事故では船体の検査が雑であったとのことで、これについて、国は猛省していたようです。ちょっと心配になります。市として、今後も学校の授業で遊覧船を利用するのであれば、安全ガイド的なものはあるのでしょうか。また、将来的には、どのようにしていくのか考えがありましたら、教えていただきたいと思います。

市長：手賀沼の平均水深は80センチです。パニックにならないければ、子供でも立ち上がれます。現在、コロナの影響で、こういったイベントは少ない状況ですが、林間学校や修学旅行もありますので、教育委員会に確認はしてみます。

手賀沼の遊覧船での船内説明では、手賀沼の生き物だけではなく、歴史も説明してくれます。陸地から見る手賀沼と沼側から見る風景はまた違っており、子供達には、水辺の大切さと水辺の住空間の大切さを小さいころから教えていきたいと思っております。どういう授業を行っていくのか、水難事故の事も踏まえて、教育委員会はどうか対応していくのか。ご意見は伝えてまいります。

